

<p>種名</p>	<p style="text-align: center;">オオシオカラトンボ <i>Orthetrum traingulare melania</i></p> 
<p>分類</p>	<p>昆虫綱トンボ目サナエトンボ科</p>
<p>俗称</p>	<p>クルマトンボ、クルマヤンマ、オクルマなどと呼ばれる。</p>
<p>形態的な特徴</p>	<p>体長 50～57mm(腹長 33～37mm、後翅長 37～44mm)ほどで、雌雄はほぼ同じ大きさ。シオカラトンボと同じような色斑を持ち、これをひと回り大きくしたような太めのトンボ。未成熟のうちは雌雄とも黄褐色の地に黒色斑があるが、雄は成熟すると翅胸部と腹部が蒼白色の粉で覆われる。また、後翅の基部に黒褐色をした顕著な斑紋がある(但し、トカラ列島から沖縄本島産の雌を除く)。幼虫は、褐色ないし暗褐色をした体長 18～23mm(頭幅 5～6mm)ほどのヤゴである。</p>
<p>分布</p>	<p>北海道、本州、四国、九州に分布し、北海道では産地に限られる。離島では粟島、佐渡島、伊豆諸島、淡路島、瀬戸内の家島諸島、隠岐、壱岐、対馬、五島列島、天草諸島、甞島諸島、および南西諸島の主要な島々に分布する。</p>
<p>繁殖行動</p>	<p>成虫は5月から9月頃に見られる。幼虫はおもに夜間、挺水植物の茎や葉裏、水面から突出した杭、護岸壁などに定位して羽化する。未成熟個体は羽化水域から近い林で生活をする。成熟した雄は水辺の挺水植物などに止まって縄張りを張る。交尾後、木陰で植物の生い茂る浅い水域に、雌は単独で連続打水産卵をする。しばしば雄がその上空でホバリングしながら産卵を見守ることがある。</p>
<p>生息場所</p>	<p>おもに平地から低山地の樹林が縁にある池沼や湿地、水田、緩やかな流れの溝川などに生息する。成虫はやや薄暗い小水域を好む性質が強く、明るく広々とした水域を好むシオカラトンボとは明確にすみ分けている。幼虫は、植物性沈積物の陰に潜んだり、柔らかい泥の中に浅く潜って生活している。</p>
<p>生息環境への配慮事項</p>	<p>本種の好む谷地の放棄水田などは、現時点ではトンボの生息環境として適した場所となっている。しかし、いずれは自然の遷移により草地化したり宅地開発により環境が著しく変化する可能性があり、長期的に安定したトンボの生息環境が維持されるとはいえない。したがって、現在生息しているからといってそのまま放置するのではなく、今後もこのような環境が維持されるような管理が必要となる。</p>
<p style="text-align: center;">引用文献：http://www.maff.go.jp/nouson/mizu_midori/menu/main.html</p>	